

誰かに刺さる生き物イラストを目指して

桐島杏莉（豊岡市地域おこし協力隊）

はじめに

私は、2024 年 5 月から豊岡市の地域おこし協力隊として活動を始めました。地域おこし協力隊には、それぞれ“ミッション”が与えられます。私のミッションは二つあり、一つ目は「生物多様性の把握・行動・発信」、二つ目は「生物文化多様性の再生に向けた活動」です。中でも、一つ目の「生物多様性の把握・行動・発信」では、実際にフィールドに出て但馬の自然を学んだり、観察会にスタッフとして参加したりする傍ら、イラストを用いて生き物の魅力発信を行っています。このイラストを使った活動自体は協力隊になるよりも前、2019 年ごろからやっています。



今回の共生のひろばでは、私が 6 年間行ってきたイラストを用いた生き物の魅力発信の活動について紹介をしていきます。

そもそも…なぜ生き物イラストを描くのか

生き物は、もともと好きな人が見ればかわいい・かっこいいと思うかもしれませんが、そうでない人の中には、実際の生き物は見るができない・触れないという方もいます。しかし、そんな方でも適度にデフォルメされたイラストなら見るができる場合があります。そのため、私はそういう人たちにも刺さるような、「ちょっとリアルだけど、適度にシンプル」そんなイラストを目指して制作を続けています。

イラストを使ってグッズづくり

イラストは描いて発信するだけではなく、グッズにしています。身に着けてもらうことで、周りの人への波及効果を期待できます。グッズはオンライン上で販売をしたり、イベントへ出店して対面で販売をしたりしています。

グッズを売っていると、「この生き物よく知らないけどかわいい」と手に取ってもらえることがあり、生き物のことを知ってもらうきっかけにもなっていると感じます。



作成した生き物グッズ



イベントでの出店の様子

発表用イラストの作成

普及啓発活動の一環として、イベントで発表をすることがあります。発表で使用するスライドを、よりわかりやすくするためのイラスト作りも行ってきました。イラストは自分の発表だけでなく、他の人の発表に使うものを作成したこともあります。

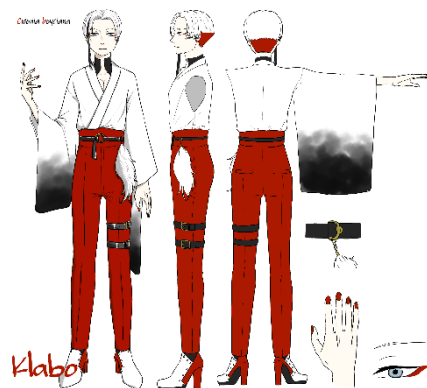


時にリアルに、時にキャラクターぽく…

擬人化への挑戦

人じゃないものを人間にする“擬人化”という表現は日本各地で行われています。時には町おこしの一環で地域の名物を擬人化しているところもあります。

生き物好きに新たな層を取り込めないかと思い、私も擬人化に挑戦しました。キャラクターのデザインはしたものの、このキャラクター達を使って今後どう展開していくかが課題となっています。



コウノトリの擬人化

これからも誰かに刺さる生き物イラストを目指して

生き物が好きな人にはこれからも好きでいてもらえて、詳しくない人には少しでも生き物のことを気になってもらえる。そんなイラストづくりをこれからも試行錯誤していきたいと思います。